

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット1)

事業所番号	0193600319		
法人名	社会福祉法人 鶴川慶寿会		
事業所名	高齢者グループホームふきのとう		
所在地	勇払郡むかわ町田浦250番地		
自己評価作成日	2023/10/10	評価結果市町村受理日	2023/12/12

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL <https://www.wam.go.jp/wamappl/hyoka/hyokasrch.nsf/resultdetail?Open&SRCHTYPE=1&MYSE RVICCODE=0001096&MYJIGYONO=0193600319&MYBUNJONO=00>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	企業組合グループ・ダイナミックス総合研究所 介保調査部		
所在地	札幌市手稲区手稲本町二条三丁目4番7号ハタナカビル1階		
訪問調査日	令和5年11月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・記録を細かく残し、入居者様の変化等について詳しく話し合える環境である。
 ・職員全体が入居者様への関りを大切にしており、レク活動や行事を行い日々楽しみながら生活出来る様に支援している。
 ・住み慣れた地域でその人らしいゆったりとした生活が出来る様に支援して行きます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、むかわ町の西方向にあり田浦地区に位置し、閑静な地域にある平屋建て1ユニットのグループホームである。隣接して、同法人の高齢者共同住宅や町立保育所があり、コロナ以前は園児と合同行事なども行っていた。法人は、社会福祉法人で、特別養護老人ホームを主として運営しており、町民からも信頼が厚く、グループホームは町からの指定管理者として運営している。ホームは天井が高く欄間窓があり、陽射しが注ぎ、リビングや廊下も広くゆったりしており、整理整頓され、利用者はリビングで寛いで過ごしている。外には、花壇や菜園もあり、季節を感じられる。コロナ感染症対策も緩和され、面会も再開するなど、町と連携して、認知症の理解者普及活動も行っており、認知症高齢者の事業所として、これからも期待したい。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9、10、19)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	<input type="radio"/> 1 毎日ある <input type="radio"/> 2 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3 たまにある <input type="radio"/> 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	<input type="radio"/> 1 ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3 たまに <input type="radio"/> 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1 大いに増えている <input type="radio"/> 2 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3 あまり増えていない <input type="radio"/> 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は事業所内に掲示し、職員間で共有し実施につなげている。	事業所の理念は、事業所内に掲示し、ミーティングや会議時に唱和しており、月1回の会議の際には、振り返りを行い職員間で共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入。地域の方達と合同で、防災訓練をしたり、お祭りで子供神輿が来たり、クリスマスに保育所とのプレゼント交換をしたりする交流を図っている	コロナ感染症対策で、地域のとの関わりは制限していたが、今年度から再開し、家族の面会は居室で30分まで可能として、クリスマスに隣接する保育所とのプレゼント交換などの交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場で参加者の方に対し認知症の人への対応方法を聞かれ説明をした。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	今年度は運営推進会議を行っており、事業所内の取り組みを報告、参加者からの質問事項に返答したし、サービス向上に生かしている。	運営推進会議は、再開しており、自治会長やむかわ町担当者、家族や法人役員などが参加して、情報交換や意見交換などしてサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	何かあれば、課長を通し、協力関係を築いている	施設がむかわ町所有で、運営受託の為、日常的に連携しており、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修、特養との合同研修を実施しており、内容も理解出来ている。玄関の施錠もしておらず、出掛ける時は見守りを実施している。	身体拘束適正化委員会は、法人内で設置しており、定期的に開催し、管理者が参加しており、事業所内では伝達講習やスタッフ会議での勉強会など行い、身体拘束をしないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内での研修で虐待についての研修を定期的に実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今回は後見人制度を利用する方がいるので、都度、関係者と、どうするかの確認を行い対応した。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	改正等がある時には、書面で郵送し署名捺印を頂いている。不明な点があればその都度説明している。また、面会時に不明な点がなかったか確認している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の意見や不満がないか日頃から観察している。面会等や玄関に意見箱を設置し家族からの意見を反映出来る様に務めている。	ホーム便りを毎月発行し、家族に運営状況を報告している。また、利用者毎の生活状況のお手紙を3ヶ月に1回送付して報告している。意見箱を玄関に設置しているが、家族からの意見や要望は殆ど来訪時に聞き取り運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議等を利用し意見を求めている。	月1回スタッフ会議とケア会議を別開催で行っている。また、会議はオンライン併用で、休日の職員も参加できるよう工夫している。個人面談は、業績評価も含め法人で再検討している。	職員の意見や提案を個別に聞く機会として、定期的な個人面談の再開を期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理シートの使用方法が変わったので向上心に繋がらない部分もある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内の内部研修、法人内の研修、外部研修への参加を進めており各職員意識、知識の向上につなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	町内の地域ケア推進会議に参加しており、他事業所との情報交換、町内の福祉サービスの向上にはなにが必要なのか話し合いをした。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に見学や面談、ケアマネジャー等からの情報を参考に要望に沿えるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みの相談を受けた段階で困っている事等に耳を傾けている。家族や本人に見学等を勧めホームの雰囲気を見ていただく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在は対象となる新規利用者がいない。申し込みの相談を受けた際に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者との関りを大切にし、入居者へ関わっている。その為、できている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしなが、共に本人を支えていく関係を築いている	近況報告も定期的に行っている。また、家族面会時入居者のホーム内での生活等を話している。特変があった時や、本人の私物購入の際等も連絡をしながら理解が深まるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会については居室内にて30分程度となり、行事で、町内のドライブを実施したり、ホーム付近の散歩を職員と一緒にしている。	居室の面会も再開しており、町内のドライブや散歩など地域との関係継続の支援をしている。また、訪問美容等も再開している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話のきっかけを作ったり、橋渡しなどスタッフがやっている。レクリエーションの場を毎日設けるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同法人の特別養護老人ホーム入所へ経過あり。家族との関りを持てるように努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の言葉を大切にし、記録に入力している。意思疎通が難しい場合にも寄り添ってケアにつなげていけるように努力している。	意思表示ができる利用者が殆どな為、個別に確認しながら寄り添ったケアに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の聞き取りや、普段からの本人の言葉や、家族からの情報を得るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態を観察し、本人が出来ることを探し実施。定期的ケア会議により、日頃の状況についての把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスで介護計画の評価、見直しを行っている。入居者・家族様にはその都度意見を求め反映している。介護計画作成時は、居室担当でアセスメントをするとともに、事前に家族様から意向を確認し上で介護計画を作成している。	計画作成担当者が家族の意見や要望を来所時や電話などで把握し、介護計画の原案を作成して、ケア会議で検討しモニタリングして集約し、計画作成担当者が現状に即した介護計画を作成している。見直しは半年毎に行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	会議を毎月行い、見直し情報を共有し、入居者の様子や状態の変化を日頃から観察し、記録をその人の言葉で文章に残している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況に合わせたケアを実施。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町の敬老会への参加や、町内ドライブ、ホーム周辺の散歩などを行い入居者も楽しんでいる様子見られている。移動の際は危険がないように職員が付き添い支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関があり、受診時は職員が付き添っている。また、ドクターメイトを導入し、日中の医療相談、夜間のオンコール対応を出来る様になっている。	協力医療機関の受診は1ヶ月または2ヶ月に1回で職員が同行している。今年からドクターメイト(看護師のコールセンター)を導入し、24時間の適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員はいないが、体調不良時は、ドクターメイトへの医療相談や、必要時受診対応が出来る様になっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は担当の看護師と連絡を取り合い、早期退院できるように医療機関と情報交換に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に説明しており、重度化した場合に再度意向を確認して、同法人の施設や医療機関の紹介など適切な対応をしている。	重度化や終末期については、入居契約時に説明しているが、重度化した場合は、法人内の特養など他の施設への移行支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応や手当は常に身につけておき、素早く対応できるようにしている。救命処置(AED)を全職員が実践できるように、消防からの講習を受講している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時マニュアルを設置し避難誘導等を実施している。また、消防にも協力要請を行っている。	火災の避難訓練は消防署立会いの下、年2回行っており、備蓄や備品も整備し、自治会の協力体制も築いて災害対策を行っている。AEDや発電機も整備され、BCPも作成している。	自然災害対策BCPが完成しているが、実証訓練がなされていない為、BCPに基づく訓練を行い、見直しを行う事を期待したい。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会議等で話し合いを行っている。入居者の自己決定、意志決定ができるよう心がけている。言葉かけについては、虐待等の内部研修にて職員に周知し気を付けている。	スタッフ会議で、言葉使いや話し方などを指導しており、内部研修も年1回～2回実施して対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いが表出しやすいような関りを心がけている。希望が言いやすい雰囲気作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	個々のペースで生活して頂けるように、努力し心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	施設行事にて化粧をしたり、洋服でお洒落をする等支援している。2か月に1度訪問美容室で整髪を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月の行事として、おやつ作り等、職員と一緒に食している。入居者の力量に合わせ、野菜の皮むきをしたり、あと片付けのお盆やコップ拭きを行っている。	管理栄養士が勤務しており、利用者の状況を確認しながら、食事を担当している。利用者は食器拭きや野菜の皮むきなど手伝っている。行事食は購入しているが、スイーツバイキングなど行っている。来年度は前庭でBBQを行う予定。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重と確認しながら、管理栄養士と相談し盛り付けなど行っている。水分量も一日量を摂れるように声掛けを行っている。本人が摂取しやすいように工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。介助が必要な入居者には声掛けやその人に応じた介助をする。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレは奥行きが広く、ゆったりしているが、便座が高い為自立している利用者も失敗することがある。支援の必要な利用者にはその人に応じた時間やかかわり方で対応している。	自立している利用者が殆どで、自らトイレでの自立した排泄に取り組んでいる。困難な利用者には声掛け誘導して支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便確認し、管理栄養士と相談しながら薬だけに頼らず、牛乳などを提供し、排便コントロールを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	おむね時間は決まっているが、本人の体調や拒否された時は、日にちや時間をずらして声掛けを行っている。	浴室は広い洗い場で、入浴は週2回行っている。基本は午後からで、曜日にも決まっているが、体調やその時の状況によって、個々に沿った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動の声かけを行い、休憩時間は本人のペースに合わせている。就寝時間は本人のペースに合わせて就寝されている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1日分ずつ服薬管理している。毎日のバイタル測定。血圧・浮腫に気を付け、かかりつけ医と連携して、薬の調整を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で本人が好きな物を選ぶ機会を作っている。ジュースを選んだり、食べたい食事を選んだり、本人の好むレクや軽作業をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日に、本人の希望に沿って施設付近を散歩してる。また、ホームの行事として戸外に出かけられる様に支援している。町内の敬老会にも参加した。	敷地内や近隣の散歩や外気浴を支援している。町内の敬老会や社協のイベントなどに参加したり、たんぼ公園や町内ドライブなど外出支援を再開している。	思い出の場所を巡るなど家族と一緒にの外出計画を期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は預かっている。外出時の買い物や外食出来るようにはしているが、現在新型コロナの影響の為、実施できていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様から電話がかかってきた時のみ、入居者が電話で話せるようにしている。ご家族様面会時に電話する事に対しては許可している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	わかりやすいトイレ表示や居間や居室に湿度計を使用し健康面に配慮している。壁紙は季節に応じた飾りを入居者と一緒で作成して展示している。	共用空間は、天井が高く天窓があり、採光や風通しもよく、湿度や温度に配慮した床暖房で暖かい。リビングや食堂は、広くゆったりしており、壁には利用者の作品や季節の飾り物が掲示されており、利用者はリビングで寛いで過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子などを置き独りになれるスペースを作っているが、ほとんど皆居間で過ごしている。居間のソファが思い思いに過ごせるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人馴染みの物を持って来て頂いている。仏壇を置かれている方もいる。	居室には、洋タンスと大きな収納があり、広い造りとなっている。利用者は使い慣れた家具や馴染みの物を持参して、居心地よく工夫して過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来るだけ自由に動けるように配慮している。転倒が起きないように見守りを行っている。分かりやすい目印や名前を貼る等の工夫をしている。		